

オタマジャクシ

藤浪 彩乃



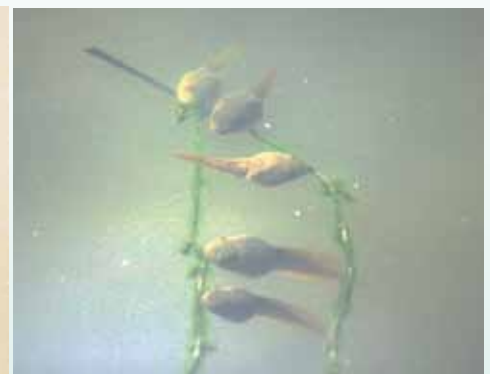
アズマヒキガエルのオタマジャクシ



タゴガエルの仲間のオタマジャクシ



ウシガエルのオタマジャクシ(標本)



ウシガエルのオタマジャクシ
(しずおか自然図鑑より、撮影:森 繁雄氏)

だんだんと暖かくなる日が多くなり、あちこちでカエルのオタマジャクシを見るようになりました。オタマジャクシはカエルの産卵から時間単位で発生が進み、1週間ほどでよく見る形になります。上から見るとその名の通り、汁物をすくう“お玉杓子”状になり、丸みを帯びた形状がとても可愛らしいです。オタマジャクシにもそれぞれ特徴があり、主に体色・斑点・大きさなどからどのカエルの子なのかを同定できます。また、色や大きさ以外でも、口にある角質でできた歯の並び（歯列）を見ることで同定することもできます。歯列は顕微鏡で見るとような小さなものですが、種ごと生え方、並びが異なるので重要な特徴となります。ここで県内に生息するオタマジャクシの特徴をいくつか紹介します。

左上の写真の小型で斑点を持たない黒一色のオタマジャクシはアズマヒキガエルです。県内では至る所で見られます。成長しても全長が3cm程度で、変態後の子ガエルも全長1cmにも満たないのが特徴です。

同じく小型で主に山地の溪流で見られ、黒色素が少なく白っぽいオタマジャクシはタゴガエルの仲間（写真右上）です。県内に生息するものでは、タゴガエルとナガレタゴガエルがいます。どちらも尾がオタマジャクシの中では長く、卵黄の消費だけで変態ができるのが特徴です。

田んぼや池などで見られるオリーブ色のオタマジャクシは、ニホンアマガエルです。先程紹介したアズマヒキガエルやタゴガエル類のオタマジャクシよりも大型で、最大全長が5cmになります。体はオリーブ色で金色の斑紋があり、目が他のオタマジャクシよりも離れています。また横から見ると尾びれが胴の前方から始まっており、あまりくびれていません。

最後にウシガエルのオタマジャクシを紹介します。ご存じの方も多いと思いますが、国内で最大級のウシガエルはオタマジャクシも巨大です。主に池や湖などの広い水面と水深のある止水に生息します。ウシガエルはオタマジャクシのまま越冬することもあります。そのため、目立つ大きさから時期を問わずに見られるかもしれません。大きさ以外では全体に緑がかった色と細かい白点が特徴です。

以上、簡単な紹介でしたが、これからオタマジャクシを見つけた際はどのカエルの子なのか考えるのも楽しいと思います。